

2011年6月23日

第38回定時株主総会 事業報告

株式会社メイテック

〒107-0052

東京都港区赤坂8-5-26 赤坂DSビル

TEL 03-5413-2600 FAX 03-5413-2622

URL : <http://www.meitec.co.jp>

I .連結業績の概況

<業績【連結】：2011年3月期>

(単位:百万円)		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	実績	61,790	3,032	5,000	3,937
	前期実績	53,776	△ 4,928	△ 276	△ 904
	対前期比増減率	14.9%	-	-	-
単体	実績	48,260	2,087	3,913	2,358
	前期実績	41,319	△ 2,964	822	53
	対前期比増減率	16.8%	-	376.0%	-

<参考/業績予想>

(単位:百万円)		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結業績 予想修正	2011年2月14日	61,500	2,600	4,700	3,300
	2010年11月12日	59,500	1,600	4,100	2,900
	2010年5月13日	55,000	100	3,400	1,900

< 2011年3月期：経営目標の達成状況>

期初の目標

1. **グループ経営方針:「自立的な企業存続を達成する」**
:雇用調整助成金に依拠することなく、事業継続ができる体制を構築する
2. **グループ経営目標:「通期営業黒字の達成」**
:メイテック連結・単体ともに通期営業黒字を達成する

➡ **達成**

* 2011年3月期業績において、連結・単体ともに営業黒字（本業で黒字）を達成

<市況の概況：2011年3月期下期>

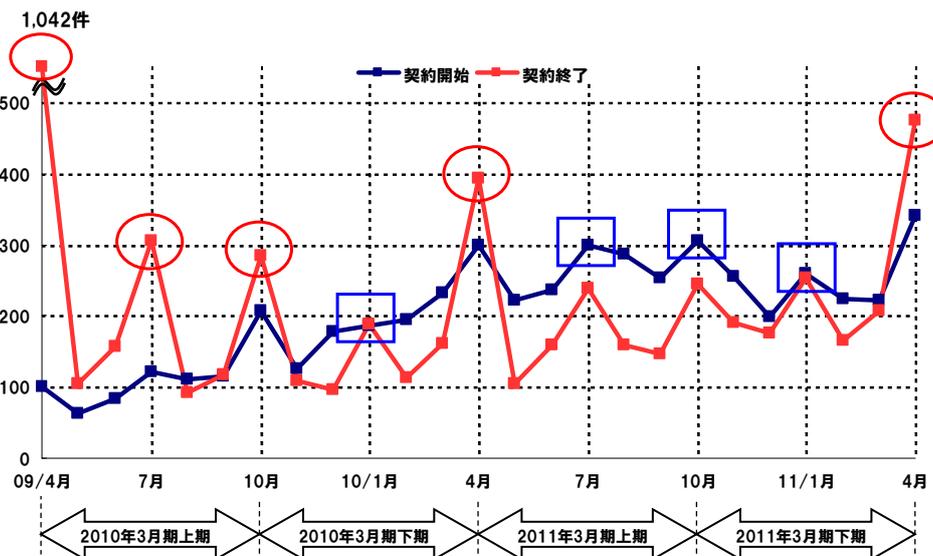
1. メイテックグループの主要顧客である製造業全体の状況

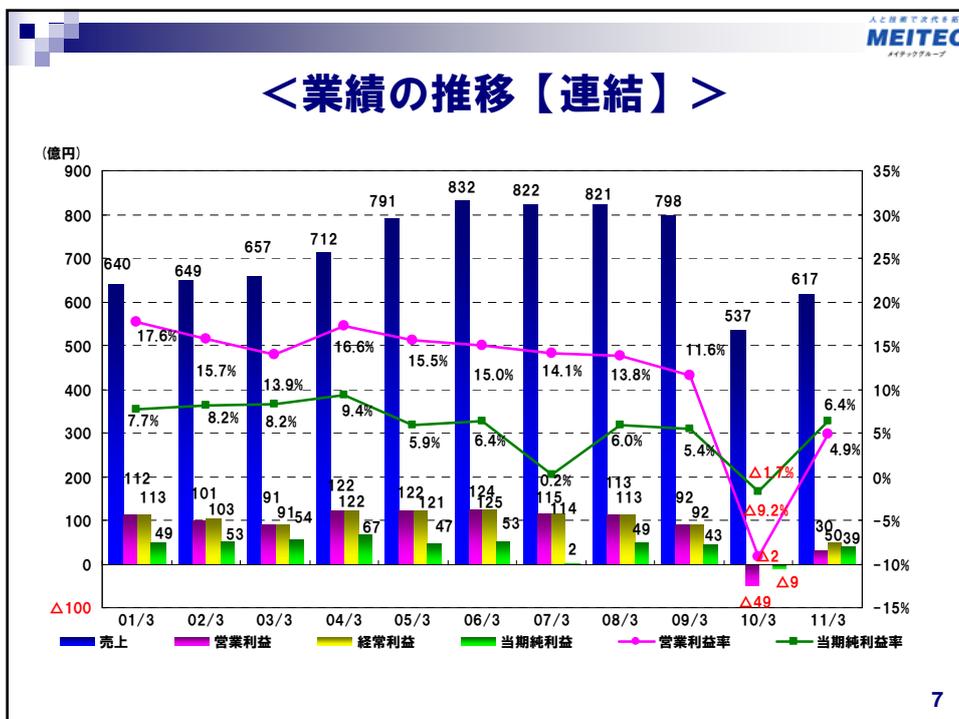
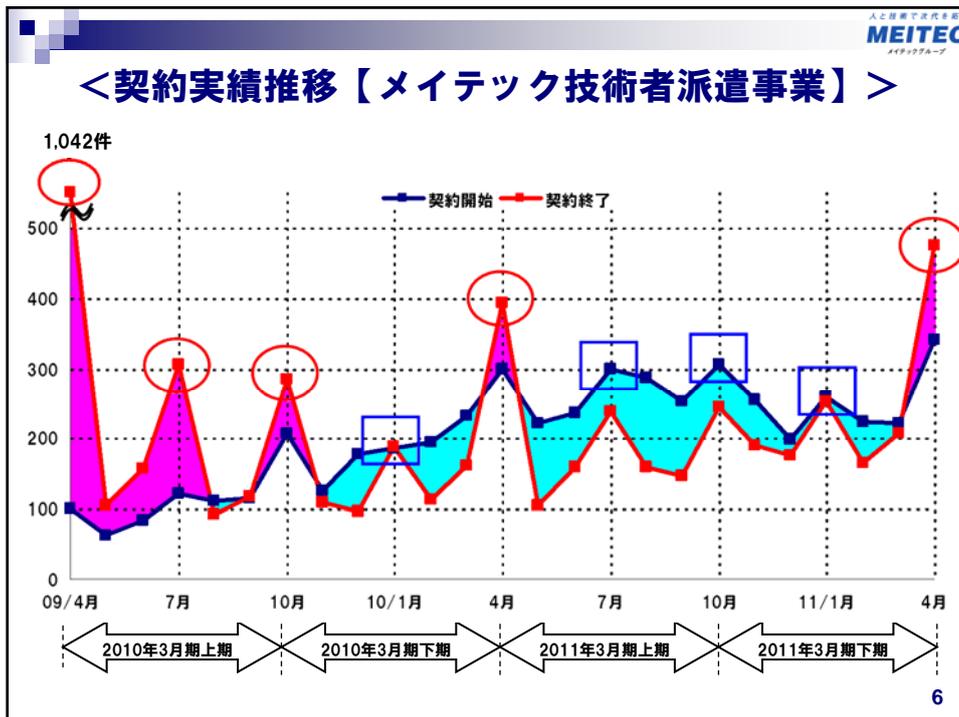
- ・ 当社の主要顧客である日本の大手製造業各社においては、コスト削減が継続しているものの、次代の成長戦略のための技術開発投資が着実に進化した。
- ・ 為替動向等の不透明要因はあるものの、業績の回復とともに、少しずつ大規模な技術開発投資を行うケースもでてきた。
- ・ 東日本大震災は、期末であったため、当期における業績への影響は限定的であった。

2. 本業(技術者派遣事業)の概況

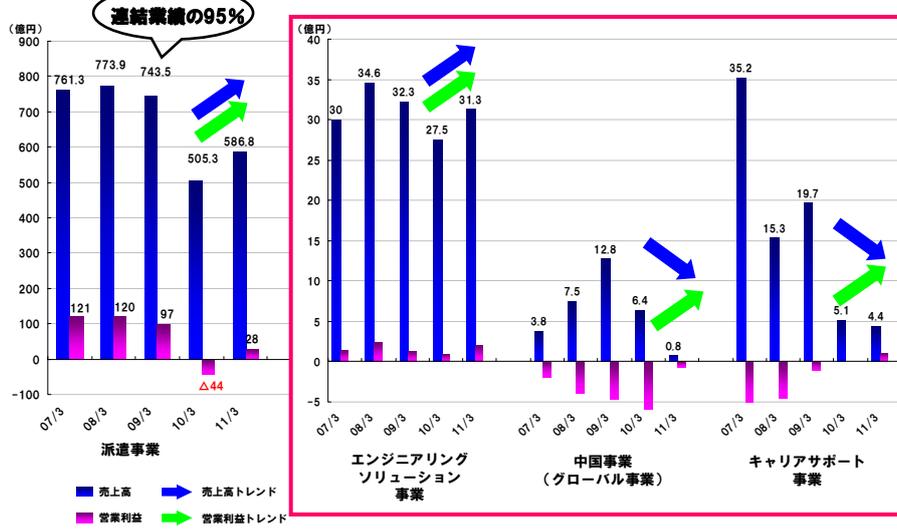
- ・ 既存顧客に対する積極的な営業活動を展開するだけでなく、新規顧客の開拓にも注力し、稼働率を持続的に改善することができた。

<契約実績推移【メイテック技術者派遣事業】>



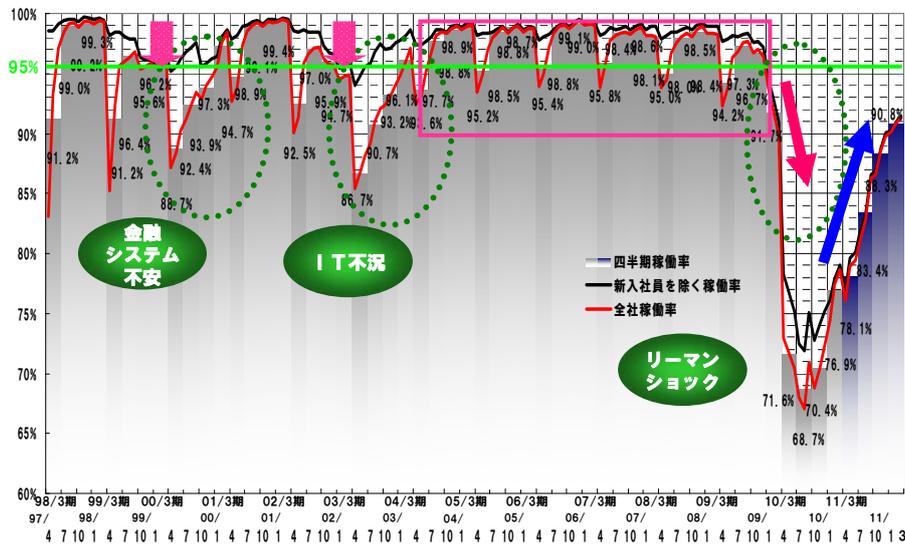


<メイトックグループの4事業：2011年3月期>

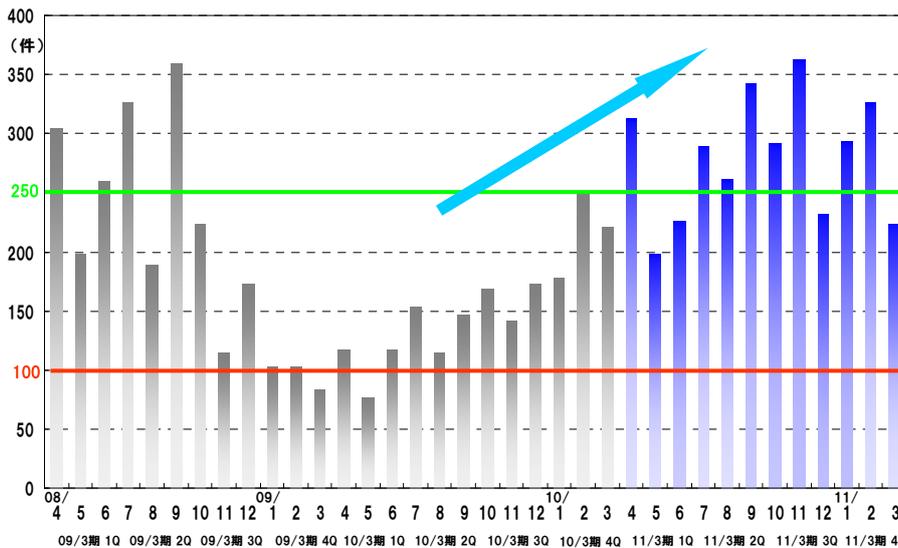


Ⅱ. 単体業績の概況

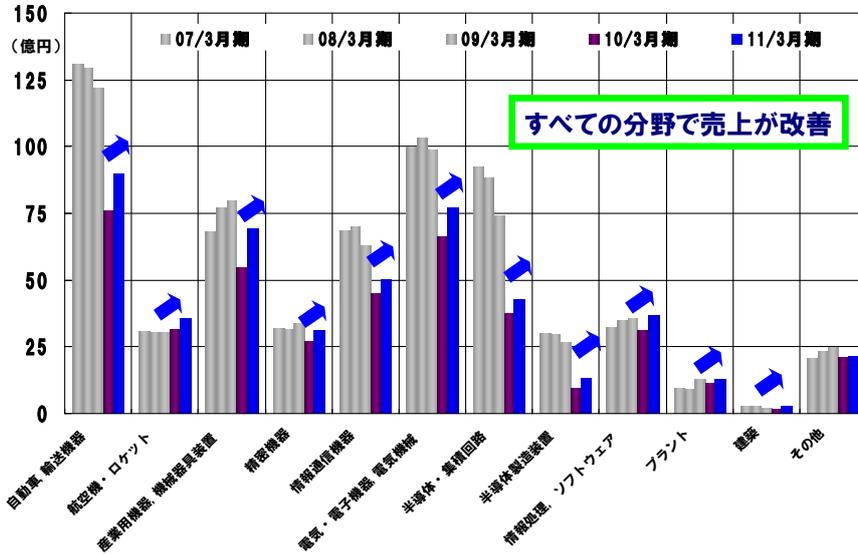
<稼働率推移【メイテック単体】>



<月間新規受注推移【メイテック単体】08/4~>



<セグメント別売上高推移【MT単体】：2011年3月期>



Ⅲ. 中期経営計画「共創21」
(2011.4.1~2014.3.31.)
について

《リーマンショックの教訓》

2010年3月期に、49億円の営業赤字(連結)を計上した。



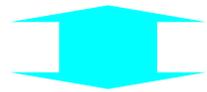
【企業価値を毀損したという事実】

- ・社員価値:最大で2,300名のエンジニアを配属できなかった。
(メイテック単体)
- ・顧客価値:2008年3月期末の1,001社(事業所単位)の顧客のうち、280社と取引継続ができなかった。
(メイテック単体)
- ・株主価値:株価が、大きく下がった。

14

《リーマンショックから学ぶべきこと》

社員価値、顧客価値、株主価値を
毀損しないようにするために、何をなすべきか？

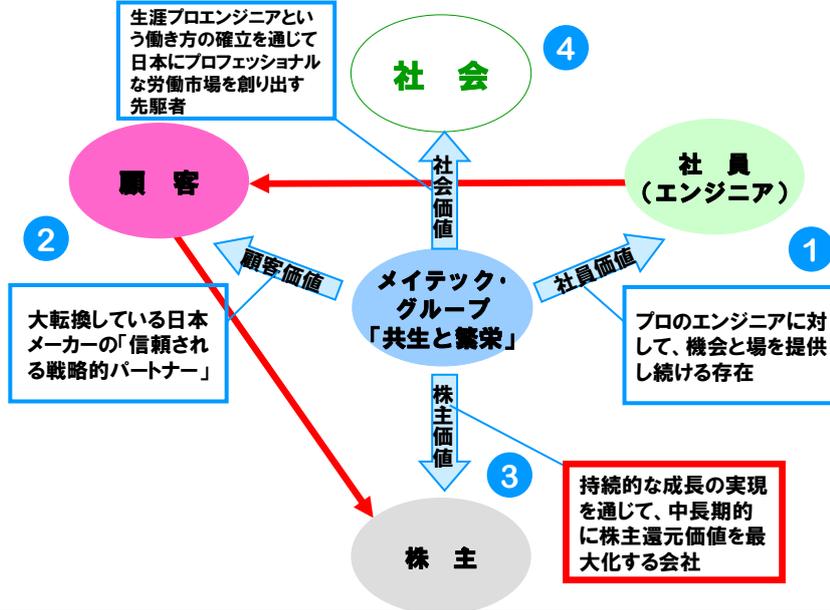


市場環境が、有事・平時にかかわらず、
中長期的に持続的な成長を実現すること

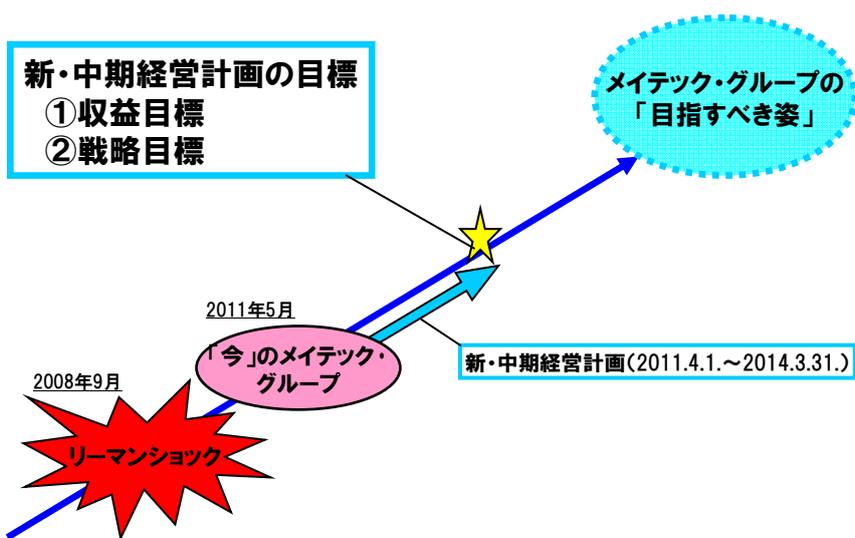
*「危機は脱しても、有事は続く」という認識

15

《新たな「目指すべき姿」として定めた企業価値》



《新・中期経営計画と「目指すべき姿」》



①収益目標

<2014年3月期>

- 連結売上／770億円以上
*単体売上はリーマンショック前の水準に戻す。
- 連結営業利益／75億円以上
*単体営業利益率は10%以上を達成する。
- 連結ROE／10%以上

②戦略目標

市場環境が、有事・平時にかかわらず、中長期的に持続的な成長を実現するための、より強い事業基盤づくりを行なう。

→*次ページの①～⑦の戦略目標(メイトック単体)を設定

《 7つの戦略目標(メイトック単体) 》



《新・中期経営計画のポイント》

- 本計画によって、メイトック単体では、7つの戦略目標によって、より強い事業基盤の構築に取り組む。
- そのための戦略投資によって、3年間は営業利益水準が、リーマンショック前よりも下回る。
- その主目的は、再度、リーマンショックと同レベルの危機にみまわれた際であっても、前回のような規模の営業赤字を出さないようにすることである。
- また、本計画を達成したあとは、営業利益水準も、より高い目標設定をしていく。

IV. 業績予想

<2012年3月期の想定>

1. 東日本大震災の発生により経済情勢の先行きの不確実性が高まっているが、今後の受注状況については、震災による受注減と、復興需要による受注増を相殺する予想をしている。
2. 本格的に採用活動を再開する計画である。
3. 有事・平時に関わらず、中長期的に持続的な成長を実現するための、より強い事業基盤づくりを目的とした戦略投資計画を実行する。(＊新・中期経営計画「共創21」)

<業績予想：2012年3月期>

(百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	第2四半期累計	32,500	2,200	2,200	1,000
	前期実績	29,357	662	2,087	1,615
	対前期比増減率	10.7%	231.9%	5.4%	△ 38.1%
	通期	66,500	4,700	4,700	2,600
	前期実績	61,790	3,032	5,000	3,937
	対前期比増減率	7.6%	55.0%	△ 6.0%	△ 34.0%
単体	第2四半期累計	25,500	1,800	2,100	1,100
	前期実績	22,698	239	1,573	900
	対前期比増減率	12.3%	651.8%	33.4%	22.1%
	通期	52,500	3,900	4,200	2,400
	前期実績	48,260	2,087	3,913	2,358
	対前期比増減率	8.8%	86.9%	7.4%	1.8%

V. 配当について

		従前		見直し後		
株主還元	株主還元			総還元性向 100%以内を原則		変更あり
	配当	業績連動型配当	連結当期純利益の50%以上	最低限の配当	連結株主資本配当率 (DOE) 5%以上	変更なし
自己株式取得	自己株式取得	自己株式の取得 ワーキングキャピタル(月商2ヶ月)を超える 現金等は自己株式の取得に充当	自己株式の取得 月商3ヶ月の連結キャッシュポジションを超える 部分を当期の自己株式取得予定額とする			変更あり
		継続保有	上限2百万株	消却	上限超を消却	変更なし

・中長期的に株主還元の最大化を目指す観点から、配当及び自己株式取得による株主還元額は総還元性向100%以内を原則といたします。

・月商3ヶ月分＝必要運転資金(ワーキングキャピタル)：連結売上高の月商2ヶ月
 ＋財務基盤強化資金(2010年3月期に相当する危機的な市場環境になった際の事業継続資金)：連結売上高の月商1ヶ月

<配当予想：2012年3月期>

(基準日)	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
当期予想 (2012年3月期)		29円00銭		29円00銭	58円00銭
前期実績 (2011年3月期)		0円00銭		27円50銭	27円50銭

- 2012年3月期の配当予想については、業績予想を踏まえ、基本方針に従い、最低限の配当水準である連結株主資本配当率(DOE)5%相当[※]とし、1株当たりの年間配当金の予想値は2011年3月期比30円50銭増配の58円といたします。
- 2012年3月期中の自己株式の取得については、基本方針に従い、自己株式の取得予定額を7億円とします。

※当期純利益(業績予想値)の50% < 株主資本配当率(DOE)の5%

人と技術で次代を拓く
MEITEC
メイテックグループ